

田原市図書館 ふしぎ文学半島プロジェクト
「泉鏡花を知る78冊～評論・評伝・ガイドブック・研究書等～」 選者: 田中励儀氏(同志社大学教授)

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
1	『泉鏡花読本』読本現代日本文学 (※)	久保田万太郎編著	三笠書房	昭和11・9・18	鏡花の代表作を「牛込横寺町時代」から「麹町下六番町時代」に至る居住地で分類・抜粋し、私淑した万太郎の目で解説を加える。「歌行燈」の高い評価もここから始まる。
2	『人、泉鏡花』 (※)	寺木定芳	武蔵書房	昭和18・9・5	*再刊(昭和58・12・25、日本図書センター) 唯一の門下生といってもいい寺木定芳が、身近に接した鏡花の日常や履歴を記した一冊。「鏡花と好悪」「鏡花と信仰」など、後の鏡花研究の材料となるさまざまな情報が詰まっている。
3	『鏡花・藤村・龍之介そのほか』学芸選書 (※)	日夏耿之介	光文社	昭和21・11・25	ワイルドやサロメの翻訳でも知られ、学匠詩人と称された日夏耿之介が著した、日本文学エッセイ。三部構成のうち第一部が「名人鏡花藝」で占められる。
4	『泉鏡花』河出文庫 (※)	村松定孝	河出書房	昭和29・7・10	岩波書店版『鏡花全集』が再刊される1970年代まで、戦後の鏡花研究をほとんど独力で担っていく村松定孝の最初の著書。綿密な調査に基づいて、鏡花の生涯と作品の全体像を示す。
5	『婦系図縁起「婦系図」成立の機縁について』 (※)	吉村博任	私家版	昭和29・11・7	「婦系図」の成立論。桃太郎=すずのこと、尾崎紅葉の死、自然主義の台頭など、本作の主要問題が早くも出揃う。標題紙には〈心に近く、眼に遠く〉と記されている。和綴。謄写版印刷。
6	『異端の弟子』 (※)	吉村博任	私家版	昭和30・6・10	標題紙に「二人の作家—紅葉門に於ける鏡花と秋声」と記されている。尾崎紅葉の弟子として、泉鏡花と徳田秋声がどのように師に接したか、師弟の倫理に説き及ぶ。和綴。謄写版印刷。
7	『もうひとりの泉鏡花 視座を変えた文学論』 (※)	蒲生欣一郎	東美産業企画	昭和40・12・28	*再刊(昭和62・10・25、日本図書センター) 翻訳申し入れをめぐる〈西洋〉との関連、〈士族への反感〉と関わる田岡嶺雲との接点、墓参小説が生み出す映画的手法など。一部に経済学理論や工芸史を援用したユニークな論考。
8	『泉鏡花』 (※)	村松定孝	寧楽書房	昭和41・4・20	*再刊(昭和54・4・10、文泉堂出版) 『泉鏡花』(昭和29・7・10、河出書房)の増補版。「高野聖」の習作「白鬼女物語」や新出書簡も紹介する。
9	『泉鏡花 人と作品』センチュリーブックス (※)	浜野卓也・福田清人	清水書院	昭和41・11・10	「ハンディな教養書」を謳う。コンパクトに纏められた評伝。「泉鏡花の生涯」、「夜行巡査」「眉かくしの霊」ほか7編の魅力述べた「作品と解説」から成る。
10	『注解鏡花小説 歌行燈 葛飾砂子 註文帳』 (※)	朝田祥次郎	創研社	昭和42・6・25	「歌行燈」「葛飾砂子」「註文帳」について、詳細な注釈と解説を施す。他作品での用例や江戸弁ふうの言い回し、あるいは、歌舞伎・読本・川柳などの援用を示し、正確な読解に寄与する。
11	『泉鏡花論考』 (※)	大石修平	明治書院	昭和43・10・30	鏡花世界の畸人性、その自我と世界などを論じ、〈他人之妻〉の主題や〈愛と婚姻〉の問題に説き及ぶ。現代散文による感情表現の迫真性を追究した〈錯覚主義〉の考察が興味深い。
12	『泉鏡花 芸術と病理』 (※)	吉村博任	金剛出版	昭和45・10・15	病跡学・精神分析学の立場から、鏡花がその独特の作品を生み出した精神の深層を探った研究。狂気と拮抗しつつそれを「ロマン化」していく過程を追う。澁澤龍彦が高く評価した。
13	『ことばの錬金術師 泉鏡花』現代教養文庫 (※)	村松定孝	社会思想社	昭和48・7・30	『泉鏡花』(昭和29・7・10、河出書房)の改版。著者の鏡花宅訪問などを増補。

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
14	『幻想の論理 泉鏡花の世界』講談社現代新書 (※)	脇 明子	講談社	昭和49・4・20	*増補版(平成4・11・30、沖積舎) 精神分析学・文化人類学・比較文化学・神話学など、隣接諸科学を用いた比較文学的考察によって、鏡花文学の幻想性・象徴性・濃密な文体などを解き明かした刺激的な研究。
15	『泉鏡花研究』 (※)	村松定孝	冬樹社	昭和49・8・30	*増補版(平成4・10・25、日本図書センター) 泉鏡花の簡潔な評伝、キリスト教や児童文学との関係、中村星湖・里見弴ら鏡花をめぐる人々の紹介、作品鑑賞から成る。増補版では、谷崎潤一郎・芥川龍之介が付け加えられた。
16	『注解考説 泉鏡花 日本橋』 (※)	朝田祥次郎	明治書院	昭和49・9・25	小説「日本橋」の全注釈。章ごとに作品本文・注解・考説を並べる。浄瑠璃・歌舞伎・浮世草子・俳句等々、江戸期の芸能や文学に関する注釈が中心で、鏡花文学の背景を明らかにする。
17	『近代文学の典拠 鏡花と潤一郎』笠間選書 (※)	三瓶達司	笠間書院	昭和49・12・31	鏡花作品における能と狂言、「高野聖」の背景にある『奇異雑談集』、湘南物の素材としての地誌やわらべうたをはじめとする典拠研究。
18	『泉鏡花 美とエロスの構造』 (※)	笠原伸夫	至文堂	昭和51・5・30	鏡花世界の基本構造について、垂直軸(他界性)と水平軸(現実性)の交点に、あえかで艶美な感覚が顕示されると整理するなど、〈美〉と〈虚構〉の意味を問うた画期的な研究。
19	『鏡花文学新論』 (※)	蒲生欣一郎	山手書房	昭和51・9・7	アウトサイダーを自認する蒲生欣一郎が、「兵役拒否と鏡花」「レクイエムの照葉狂言考」など、やや特異な視点から鏡花を論じる。「通夜物語」「葛飾砂子」映画化に触れた考察も面白い。
20	『泉鏡花の文学』 (※)	三田英彬	桜楓社	昭和51・9・15	鏡花の純粹表現や様式の問題を追い、マゾヒズムやエロスを論じる一方で、「義血俠血」自筆原稿の調査や、未発表原稿「蝦蟇法師」の紹介が成される。「初期自筆原稿目録解題」を付載。
21	『人間 泉鏡花』東書選書	巖谷大四	東京書籍	昭和54・12・5	*再刊(昭和63・3・10、福武書店)福武文庫 鏡花の師尾崎紅葉に兄事した巖谷小波の子息・大四が著した評伝。鏡花の姿を瞥見し、すず夫人にも会った大四が、さまざまな文壇エピソードを通して、鏡花の人間性を浮き彫りにする。
22	『泉鏡花』日本文学研究資料叢書 (※)	東郷克美編	有精堂出版	昭和55・6・1	既発表の研究論文26編と、泉鏡花も参加した「幽霊と怪談の座談会」を採録する。論文の選択が的を射ており、巻末に付された「解説」でこの時期までの鏡花研究の動向が把握できる。
23	『泉鏡花伝 生涯と作品』 (※)	荒川法勝	昭和図書出版	昭和56・7・20	評伝作家荒川法勝が手掛けた泉鏡花の評伝。「泉家の系譜」から「幽幻挽歌」まで全20章。泉名月や母さわ、あるいは、鏡花門に出入りした中川興一や十和田操に取材した箇所もある。
24	『羽つき・手がら・鼓の緒』	泉 名月	深夜叢書社	昭和57・1・20	鏡花の姪で、没後、泉家の養女となった名月が記した回想記。鏡花の妻すずから聞いた逸話や、兎の玩具の蒐集、摩耶夫人信仰、犬嫌い、熱爛好み等々、鏡花の性癖が親しみ深く綴られる。
25	『泉鏡花』鑑賞日本現代文学3	野口武彦編	角川書店	昭和57・2・28	「泉鏡花の人と作品」に始まり、「妙の宮」以下9作品の「本文および作品鑑賞」、先行研究8編を採録した「泉鏡花の窓」がつづく。「高野聖」の玄牝(げんびん)的世界を論じるなど、新見に富む。
26	『泉鏡花事典』 (※)	村松定孝編	有精堂出版	昭和57・3・10	鏡花文学読解のための基本ツール。「泉鏡花小伝」「鏡花小説・戯曲解題」「鏡花作品中の特殊語彙」「鏡花文学批評史考」「鏡花著作年表」「鏡花研究参考文献一覧」から成る。労作。
27	『鏡花当字字典』 (※)	矢田佳津人	豆本工房	昭和58・1	限定30部の豆本。漢字や句読点の使用率が高い鏡花の小説35編から抜き出した難読語、鏡花独特の当て字を五十音順に並べた一冊。

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
28	『幻影の杼機（ちよき）泉鏡花論』（※）	渡部直己	国文社	昭和58・4・15	*再刊（平成8・7・22、河出書房新社） 鏡花文学を「言葉の織り物（テキスト）」として読もうとする姿勢で貫かれた批評。読むという行為がテキストからつむぎ出すイメージを捉え、作品に伏在するさまざまな記号や符牒の意味を炙り出す。
29	『泉鏡花の世界 幻想の病理』（※）	吉村博任	牧野出版	昭和58・6・10	前著の総論『泉鏡花 芸術と病理』に次いで、病跡学・精神分析学の立場から纏められた各論。「病跡」「幻想」「修辞」「母胎」「縁起」「師弟」から成る。「サの字千鳥」の解説が秀逸。
30	『鏡花論集成』（※）	谷沢永一・渡辺一考	立風書房	昭和58・9・1	巻頭に谷沢永一が書き下ろした「鏡花頌史」を据え、第一部では鏡花の人となり伝える19編を、第二部では作品批評を中心とした48編を採録する。研究論文とは異なる文章の集成が特色。
31	『泉鏡花』新潮日本文学アルバム22	野口武彦編	新潮社	昭和60・10・25	「写真で実証する作家の劇的な生涯」を謳い、人物・書簡・図書・風景など、豊富な写真を収録する。津島佑子のエッセイ、野口武彦執筆の評伝が鏡花世界の道しるべとなる。
32	『泉鏡花』（※）	荒川法勝	長崎出版	昭和61・2・5	『泉鏡花伝 生涯と作品』（昭和56・7・20、昭和図書出版）の改訂普及版。「鏡花誕生」から「帰京後と晩年の鏡花」まで全5章に再構成。コンパクトに要約された。
33	『研究・泉鏡花』（※）	平井修成	白帝社	昭和61・5・10	「文学の日常性からの自立の可能性」を探るべく、鏡花作品の方法、〈母なるもの〉の主題、民俗・芸能の主題、上田秋成との関係が論じられる。
34	『泉鏡花 心像への視点』（※）	中谷克己	明治書院	昭和62・4・20	鏡花作品の具体的な形象から喚起される、深層のイメージを捉えることをめざした論考。「化鳥」「高野聖」など8編について、エリアーズ、バシュラール、ユングらの理論が援用される。
35	『鏡花と戯曲』文学論集3（※）	越智治雄	砂子屋書房	昭和62・6・15	「滝の白糸」「白鷺」など鏡花戯曲の上演を、新聞や演芸雑誌の記事・絵番付・台本のかきぬき・役者の回想記等々、多彩な資料を活用して実証的に分析した好論4編を収める。
36	『論集泉鏡花』（※）	泉鏡花研究会編	有精堂出版	昭和62・11・20	*再刊（平成11・10・10、和泉書院） 198年に発足した泉鏡花研究会会員が、精力を費やして書き下ろした論文13編と、詳細な参考文献目録から成る。「貧民倶楽部」「春昼」「春昼後刻」ほか、幅広いテーマが論じられる。
37	『あぢさゝみ供養頌 わが泉鏡花』（※）	村松定孝	新潮社	昭和63・6・5	生前の鏡花に会った最後の研究者が、その思い出を核に著した評伝小説。今日ほど鏡花文学が顧みられることが少なかった当時の近代文学研究の中で、孤塁を守ってきた自負も窺える。
38	『泉鏡花 エロスの繭』（※）	笠原伸夫	国文社	昭和63・10・31	「『高野聖』の神話的構想力」「『風流線』の方法」「『草迷宮』の靈的エロス」を筆頭に、前著『泉鏡花 美とエロスの構造』以降の論考を集め、鏡花作品の深層構造を明らかにした一冊。
39	『鏡花文学』（※）	日夏耿之介	研文社	昭和63・11・30	学匠批評家日夏耿之介の鏡花論を集大成した一冊。巻末の解説で谷沢永一が、作品の「面白さ」への凝視、それを読者の胸奥へ直截に伝達する「反芻批評」の至芸を称揚する。
40	『鏡花幻想』（※）	竹田真砂子	講談社	平成1・3・10	*再刊（平成6・9・15、講談社）講談社文庫 鏡花の生涯を、芸妓・桃太郎との家庭生活を通して描いた評伝小説。章題には「湯島詣」「誓之巻」「風流線」など作品名が採用されるとともに、〈芸道もの〉の構えを持つ。

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
41	『泉鏡花とその周辺』 (※)	手塚昌行	武蔵野書房	平成1・7・14	「高野聖」「照葉狂言」ほか作品成立論を中心に、森田思軒・原抱一庵ら鏡花に影響を与えた作家の研究、それに江戸期の随筆雑著『甲子夜話』の撰取など、堅実な実証の成果がみられる。
42	『幻想空間の東西 フランス文学をとおしてみた泉鏡花』 (※)	金沢大学フランス文学会編	十月社	平成2・1・8	日本フランス語フランス文学会でのシンポジウムを基に書き下ろされた論文5編から成る。異人・多神教・他界・妖異・分身幻想などをキーワードにした比較文学研究。
43	『泉鏡花 人と文学』東京電力文庫 (※)	東郷克美	東京電力営業部 お客さま相談室	平成2・4	東京電力女性セミナーの講座内容を取り纏めた一冊。「鏡花世界の誕生」「『高野聖』の魔界」「『歌行燈』の時空」「霊的存在の顕現」から成り、やさしい語り口で鏡花文学の特徴を述べる。
44	『泉鏡花 美と幻想』日本文学研究資料新集12 (※)	東郷克美編	有精堂出版	平成3・1・7	昭和55年の前著につづき、研究論文16編と同時代評5編を採録。岩波旧版全集「月報」からは「蔵書目録」や「作品人名索引」を転載する。鏡花研究の現在を整理した「解説」が役に立つ。
45	『魔界への遠近法 泉鏡花論』紫陽花叢書 (※)	吉村博任	近代文芸社	平成3・1・30	鏡花文学の視覚的方法とその淵源、折口信夫や徳田秋声の眼を通して浮かび上がる人間像、吉村博任の専門分野である精神分析学の立場から論じた作品論など。「龍潭譚」論が興味深い。
46	『評釈「天守物語」妖怪のコスモロジー』 (※)	笠原伸夫	国文社	平成3・5・30	「天守物語」の全注釈。中世的要素や妖怪関係の注釈に力点が置かれる。役者や演出家の言葉を引きつつ、舞台と本文を一望した地点からなされる犀利な評釈が、傑作の所以を説き明かす。
47	『論集泉鏡花 第二集』 (※)	泉鏡花研究会編	有精堂出版	平成3・11・3	*再刊(平成11・10・10、和泉書院) 泉鏡花研究会会員の書き下ろし論文11編と参考文献目録から成る。「風流線」「春昼」「陽炎座」などを取り上げた作品論や、鏡花と挿絵画家との関わりを論じた研究など、新見に富む。
48	『泉鏡花』 (※)	寺田 透	筑摩書房	平成3・11・25	岩波書店版『鏡花小説・戯曲選』のために書かれた「解説」に、雑誌原稿2編を加える。「対話・鏡花と泡鳴、その前に小林秀雄」は、自然主義作家との共通性など珍しい観点が提供される。
49	『泉鏡花』群像日本の作家5 (※)	東郷克美編	小学館	平成4・1・10	作家論・作品論・同時代評・文章・ひと・交遊等々、多方面から鏡花を語った文章を採録。津島佑子・古井由吉の書き下ろしエッセイや、東郷克美執筆の研究史などもある充実した案内書。
50	『鏡花万華鏡』筑摩叢書 (※)	生島遼一	筑摩書房	平成4・6・30	鏡花文学をこよなく愛したフランス文学者生島遼一が残した鏡花論を、没後、一冊に纏めた珠玉の書物。鏡花文学の本質を「童心の詩」に見出し、上品な文体で「語りの技術」を称揚する。
51	『異界の方へ 鏡花の水脈』	東郷克美	有精堂出版	平成6・2・25	近代文学における異界論・ユートピア論というべきものを集めた論文集。鏡花を中心として、折口・柳田・芥川・谷崎・太宰などが取り上げられる。民俗学的な視点を踏まえた考察が秀逸。
52	『言葉の影像(かげ) 鏡花五十年』 (※)	村松定孝	東京布井出版	平成6・4・10	長い研究歴を持つ村松定孝が、金婚式を記念して編んだ随筆集。若き日の鏡花との出会いを回想し、「鏡花・龍之介の俳句」「泉鏡花と落語」などで、所見をのべる。
53	『評伝 泉鏡花』 (※)	笠原伸夫	白地社	平成7・1・20	鏡花文学世界の解明に批評の冴えを見せてきた笠原伸夫が、「テキストの深層から聴こえてくる声のごときもの」を「伝記的枠組みをもつ形」で著した評伝。作家と作品をめぐる視点が秀逸。
54	『鏡花本今昔』 (※)	生田耕作	未来工房	平成7・6・30	*増補版(平成11・3、奢瀧都館) 元版は限定250部の豆本。鏡花本蒐集で知られるフランス文学者生田耕作が、初版本と鏡花作品の魅力を語った一冊。限定600部の増補版では、子息生田敦夫が「余話」を付す。

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
55	『定本 泉鏡花研究』 (※)	村松定孝	有精堂出版	平成8・3・10	岩波書店版『鏡花小説・戯曲選』のために書かれた「解説」、および、夏目漱石・谷崎潤一郎・芥川龍之介・久保田万太郎との関係を説いた論考から成る。
56	『泉鏡花』日本文学研究大成	三田英彬編	国書刊行会	平成8・3・27	戦後の鏡花研究から、単行本未収録の論考31編を採録する。巻末に付された「解説」では、「日本近代文学全体を一人逆照射している感のある鏡花文学の位相の究明」が求められている。
57	『泉鏡花「海の鳴る時」の宿』 (※)	種村季弘	まつさき	平成8・11・7	鏡花の叔母ゆかりの石川県辰口温泉の旅館まつさきが発行した、種村季弘の紀行。「晴浴雨浴日記・辰口温泉篇」と付記され、「海の鳴る時」本文も収録される。
58	『幻想のオイフォーリー 泉鏡花を起点として』 (※)	高桑法子	小沢書店	平成9・8・30	幻想文学が成り立つ〈作品行為という場面〉において、書き手と読み手がそれぞれに体験する〈夢幻の陶醉〉の実相を明らかにすべく、鏡花・谷崎・乱歩・安吾の諸作品を分析した論文集。
59	『泉鏡花文学の成立』	田中勳儀	双文社出版	平成9・11・28	書誌的調査、同時代評・研究史の整理、本文異同の分析、成立事情の検討などに基づく〈実証的研究〉をめざした作品論13編。京都・大阪・神戸など、地誌的作品成立過程論が目立つ。
60	『反近代の文学 泉鏡花・川端康成』 (※)	三田英彬	おうふう	平成11・5・30	鏡花を「大昔から続く母性原理に立つ文化を、懸命に守り立てる側に立った作家」と規定し、能楽との関係や上田秋成の受容、あるいは逗子との関わりを論じ、川端文学の研究に及ぶ。
61	『論集泉鏡花 第三集』 (※)	泉鏡花研究会編	和泉書院	平成11・7・30	泉鏡花研究会会員の書き下ろし論文8編と参考文献目録から成る。「湯島詣」「無憂樹」「婦系図」などを取り上げた作品論や、鏡花文学の中の〈知〉の問題を論じた研究など、新見に富む。
62	『論集 大正期の泉鏡花』 (※)	泉鏡花研究会編	おうふう	平成11・12・10	泉鏡花研究会会員が大正期に絞って書き下ろした論文15編から成る。「革靴の怪」「深川浅景」「山海評判記」などの作品論や、鏡花の故郷意識、単行本書誌に向けた研究など、多岐に亘る。
63	『泉鏡花』ちくま新書	佐伯順子	筑摩書房	平成12・8・20	近年、舞台化・映画化される機会が増えた鏡花作品の特徴を、「日本橋」「夜叉ヶ池」「草迷宮」に即して綴った評論。演劇的世界との親和性を通して、鏡花文学の構造を開示する。
64	『白山の水 鏡花をめぐる』	川村二郎	講談社	平成12・12・18	*再刊(平成20・9・10、講談社)講談社文芸文庫 少年期の金沢体験から始まり、各地の精霊を訪ねる旅での見聞を基に、鏡花の作品世界を地誌的・民俗学的に読み解いた長編エッセイ。「水」「橋」「蛇」「化物」等々、21章から成る。
65	『深層の近代 鏡花と一葉』 (※)	山田有策	おうふう	平成13・1・25	言語の表層と深層を解明しつつ、近代の〈物語〉世界を掘り起こす。文体と語りの構造や、露伴・三島との比較など、多彩な論考が並ぶ。民俗学を参照した「貝と河童と花祭り」が秀逸。
66	『泉鏡花 呪詞の形象』 (※)	眞有澄香	鼎書房	平成13・2・10	文学の出発点を〈呪詞〉に求めた折口信夫説を起点に、鏡花作品に見られる「ことばの呪力—呪詞化された言語のもつ力」と向き合った論考。「基底」「表現」「空間」の三部から成る。
67	『鏡花変化帖』	橘 正典	国書刊行会	平成14・5・20	「雛人形と蠟人形」「剃刀と眉」「歯・小指・片袖」などの章立てにみられるように、鏡花作品に頻出するイメージを切り口に、〈美〉と〈醜〉が一体となった鏡花の作品世界を読み解く。
68	『論集 昭和期の泉鏡花』 (※)	泉鏡花研究会編	おうふう	平成14・5・25	泉鏡花研究会会員が書き下ろした、昭和期の作品論10編から成る。「夫人利生記」「深川浅景」「山海評判記」などを、成立背景、地誌的叙述、新聞小説ほかさまざまな視点から解明する。

番号	タイトル	著者・編者	出版社	発行年	選者コメント
69	『泉鏡花「高野聖」作品論集』 (※)	田中勲儀編	クレス出版	平成15・3・25	「高野聖」作品論21編を採録し、網羅的な「参考文献目録」と、研究史を整理した「解説」を付す。専門的な鏡花研究者のみならず、増田五良・東雅夫らを収録したところに特徴がある。
70	『泉鏡花論 心境小説的特質をめぐって』 (※)	赤尾勝子	西田書店	平成17・12・17	私小説・心境小説論争が起きた大正末年の文壇に、鏡花作品を開いていこうとする試み。「萩薄内証話」「身延の鶯」など、比較的珍しい作品が取り上げられる。
71	『論集泉鏡花 第四集』 (※)	泉鏡花研究会編	和泉書院	平成18・1・25	泉鏡花研究会会員の書き下ろし論文9編と参考文献目録から成る。「紅玉」「日本橋」「眉かくしの霊」などを取り上げた作品論や、鏡花作品の贖罪の軌跡を跡づけた研究など、多岐に亘る。
72	『鏡花と怪異』	田中貴子	平凡社	平成18・5・9	中世文学を専攻する田中貴子が、鏡花が見聞した「あやしいもの」の消息に惹かれ、鏡花作品の怪異の意味を明かそうとする。中世の本地物との共通性や『今昔物語集』の典拠等、興味深い。
73	『鷗外・漱石・鏡花一実証の糸』 (※)	上田正行	翰林書房	平成18・6・24	「薬草取」「風流線」「春昼」「山海評判記」を取り上げ、緻密な地誌調査に基づく実証で作品の成立を解明した論文集。金沢出身の反骨のジャーナリスト桐生悠々との交友にも説き及ぶ。
74	『泉鏡花 人と文学』日本の作家100人	眞有澄香	勉誠出版	平成19・8・31	巻頭に「泉鏡花小伝」を据え入門書としての性格を備えつつ、「教科書からみた鏡花批評史」「教材化された鏡花作品」では、鏡花文学と学校教育とを関連づけ、新方面での研究をめざす。
75	『泉鏡花と花 その隠された秘密』	菅原孝雄	沖積舎	平成19・11・25	鏡花が描いた花々に焦点を当て、横断的に論じる。紫陽花・躑躅・黒百合・桔梗等々の作中での意味を明らかにしつつ、終章では、鏡花にとって「非在の花」とは幻の女性であったと結ぶ。
76	『論集泉鏡花 第五集』	泉鏡花研究会編	和泉書院	平成23・9・20	泉鏡花研究会会員の書き下ろし論文13編と参考文献目録から成る。「髻題目」「夜叉ヶ池」「露宿」などを取り上げた作品論や、鏡花作品の上演史や人稱の問題に触れた研究など、力作が並ぶ。
77	『泉鏡花論 到来する「魔」』	種田和加子	立教大学出版会	平成24・3・30	鏡花文学における「魔」の批評的作用と怪異性との重層的構造の解明をめざす。「子供、その他者性」「異貌の世界」「表象のドラマ」の三部構成で、文化史的視点を用いて明晰に論じる。
78	『泉鏡花 百合と宝珠の文学史』	持田叙子	慶應義塾大学出版会	平成24・9・29	指輪・花・くだもの・雛・汽車・骨など、作中にちりばめられた多彩なイメージを分析し、鏡花が作り上げたマイクロコスモスをひもとく。南方熊楠との関係など、新鮮で説得力がある。



(※)の資料は、2012年11月20日現在
未所蔵のため、ご覧になりたい方は、リクエスト
サービスをご利用ください。